

広報⊕
No.725
令和6年

いいたて7

www.vill.iitate.fukushima.jp





④⑤⑥ 6月16日、高野靖夫さん・笑子さん夫婦（前田・八和木）の畑やハウスで、野菜の収穫を体験しました。昼食には採れたて野菜のサラダをつくり、ウズラの卵の目玉焼きをのせた焼きそばなども味わいました。



60人が、スタッフとして合宿生活をサポートしました。

また、村民の皆さんの協力を得ながら、合宿通学の期間を通じて、農業研修も行いました。7月1日から運用を開始した農業研修館で、子ども達が一足早く、初めての研修を行った形です。

8日間にわたり、普段とまるで違う集団での生活をやり切った子ども達。閉講式では、初めての体験やスタッフへの感謝を発表し、達成感をにじませました。



⑦『農業研修館きらり』にて、17日に森永正男さん（前田・八和木）から「お米の話」、19日に佐藤峯夫さん（宮内）から「飯館牛の話」を聞きました。⑧子ども達が調理し、校長先生、副校長先生、高橋教育長職務代理者をお招きした18日の夕食。「協力してつくる姿に感心しました」「果物いっぱいデザートがおいしかった」などたくさん褒めていただきました。

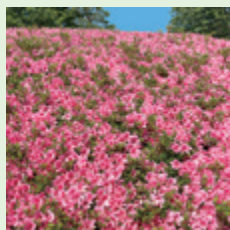


①②③ 6月20日の夕食は、いいたての暮らしをつなぐステーション【3ど】にて、高橋トク子さん（深谷）と村民食堂が用意した郷土料理を味わいました。杉岡村長も一緒に。建物の由来や【3ど】の仕事についても話を聞きました。

6月15日から22日までの8日間、『令和6年度わくわくどきどき合宿通学（希望の里の農業研修体験）』を実施しました。参加者は、いいたて希望の里学園の4～6年生15人です。合宿通学は、集団生活を通して社会性や自立性、協調性を養うこと、友達と楽しい思い出をつくることなどを目的に、飯館村教育委員会が主催しました。

いきいきわくわく合宿通学（希望の里の農業研修体験！） いいたて希望の里学園の4～6年生が挑戦しました

参加した15人の児童は、新規就農者技術習得管理施設『農業研修館きらり』に宿泊し、各班で分担して、食事の準備や片付け、掃除・洗濯などに取り組みました。家事をしながら、平日はスクールバスで登校です。子ども達は、家庭を離れて生活をする中で、自然に家族の温かさやありがたさを感じていたようでした。役場職員や福島大学の学生ら延べ



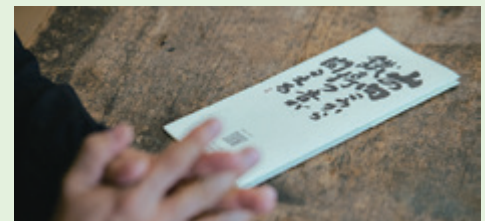
初夏の青空を見上げる満開のツツジ。役場の前庭にて。

目次 CONTENTS

- 02 話題「いきいきわくわく合宿通学」
- 04 特集「ゼロカーボンビレッジいいたて」
- 10 学びの広場「滝下浄水場を見学」ほか
- 12 報告「6月議会定例会」
- 14 空から百景「里山の夏景色」
- 16 いいたて便り
- 18 話題のパレット
- 20 お知らせ「百歳賀寿」ほか
- 21 いいたてなりわいREPORT
- 22 村からお知らせ
- 24 いいたてイノサル通信
- 25 歴史の散歩道／ふれ愛館だより
- 26 村民広報委員コラム ほか
- 27 愛楽故郷味／ひとのうごき
- 28 ほっとNEWS／水害に備えよう

📷 今月の表紙

旧草野幼稚園に工場を構える「刃物の館やすらぎ工房」の二瓶貴大さん。7月から11月にかけて『山の向こうから鐵（てつ）を打つ音が聞こえる』と題したイベントを開催します（P21の記事参照）。詳しくは同封のパフレットをご覧ください。関連動画は右上のQRコードから。



村はイベントや取り組み取材し広報紙やホームページに掲載しています。写真掲載に不都合がある方は、お手数ですが、村づくり推進課企画定住係 ☎0244-42-1613 までお知らせください。

ゼロカーボンビレッジいいたて

ゼロカーボンシティは、『脱炭素都市』と訳されます。環境省においては、「2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにする」と宣言した自治体を「ゼロカーボンシティ」と定義しています。

飯館村は、令和4年3月14日に、「ゼロカーボンビレッジいいたて」を宣言しました。再生可能エネルギーの活用や、森林再生の事業などを通して、温室効果ガスの一つ、二酸化炭素の排出量削減を推進しています。

また、令和5年度に、「ゼロカーボンビレッジいいたて実行計画」を策定しました。実行計画では、現状を分析し、目標達成のための取り組みを例示。推進体制や進捗の評価方法についても記載しています。

国は、2050年までに目標を達成するには、2030年までが重要な期間であると位置付けていて、各地方自治体が、地域の特徴に合わせた実行計画をそれぞれに策定しています。

バイオマス発電施設「飯館みらい発電所」の竣工に合わせて、飯館村の最新の取り組みを紹介し、暮らしの中のゼロカーボンについてもお伝えします。

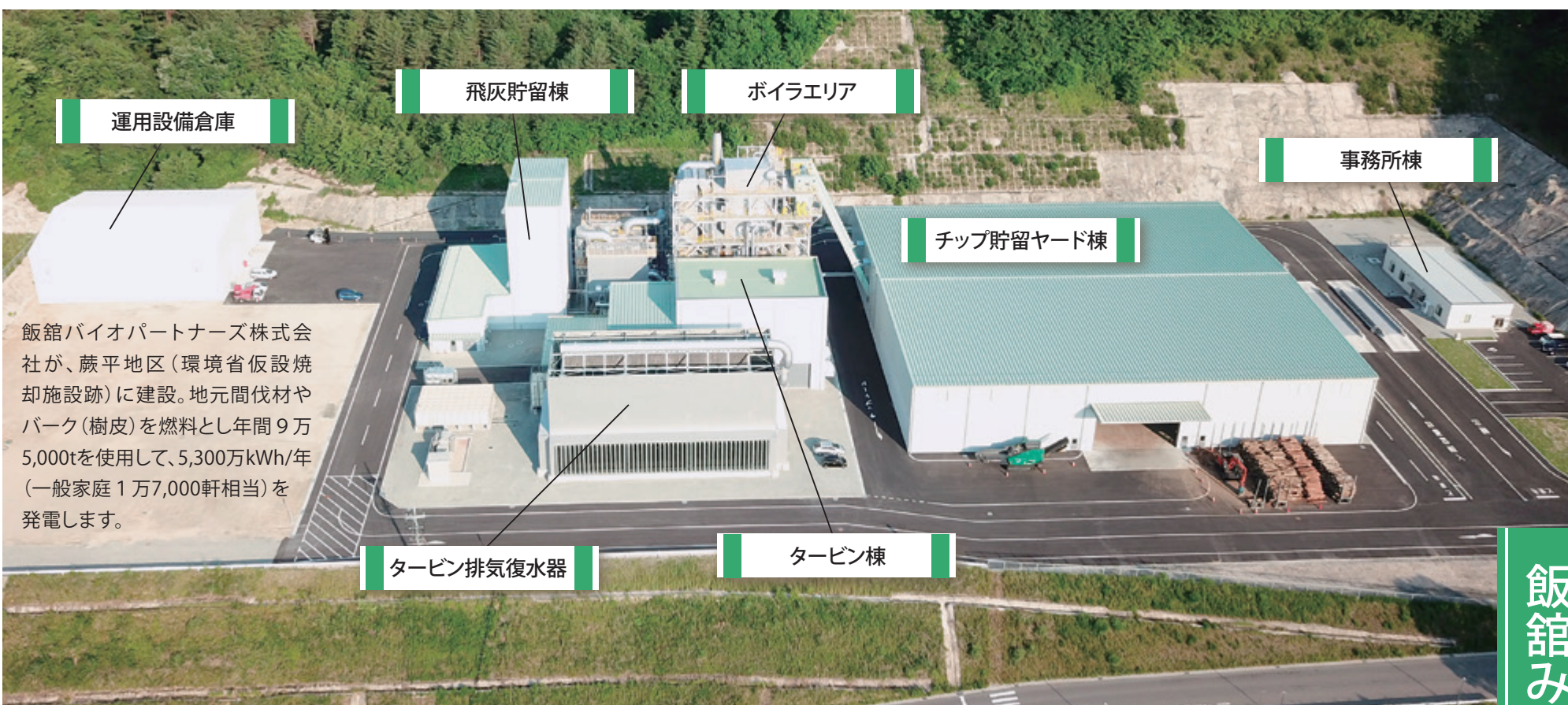
地球温暖化による急速な気候変動は世界の課題であると同時に、一人ひとりの問題でもあります。できることから一つずつ、飯館村は、地域に活力を与え、暮らしを豊かにする視点を持って、地球温暖化対策に取り組んでいきます。

『ゼロカーボン』のカーボンとは炭素のことで、『ゼロカーボン』は「脱炭素」と訳されます。『ゼロカーボン』は「二酸化炭素の排出量を実質的にゼロにする」という意味で、『カーボンニュートラル』は「二酸化炭素の“排出量”と“吸収・除去量”がつり合っている」という意味です。『ゼロカーボンシティ』も、プラスマイナスゼロの『カーボンニュートラル』の状態を目指します。

二酸化炭素(CO2)は動物の呼吸や有機物が燃えることで空気中に排出され、植物の光合成によって消費されています。

飯館みらい発電所

「飯館みらい発電所」は、原発事故の影響で利活用が停滞していた間伐材やバーク(樹皮)を使用してバイオマス発電を行い、地域の里山再生、福島県内の林業振興に貢献します。6月30日に竣工式が行われ、現在は、7月中の本格稼働を目指して試験運転を行っています。



①チップ貯留ヤード棟。手前の色の濃い材がバークで右奥がチップ。②チップとバークを混ぜたブレンド材をコンベアに投入。③ブレンド材を燃やすボイラエリア。④原木(丸太)を加工するスウェーデン製の破砕機。運転席がなく、リモコン操作で動きます。⑤チップとバークは1日に10トラック約30台分を中通りや浜通りから搬入。村産の原木は貯木場から運搬します。

繊維質の多いバークを他の発電施設よりも多く使用する計画で、適切な運転ができるよう試験を行っています。

木質燃料は浜通り中通りのものを使用しています。放射性物質が付着した燃料焼却後の飛灰は、外部に漏らさないようバグフィルタで確実に捕集しています。また、放射線管理者が常駐して施設内外の環境モニタリングを行い、安全な運転を継続していきます。今年2月には周辺自治体にも参加をいただき、地域協議会が立ち上げられ、発電所の運転状況などを定期的に報告しています。

原木は、飯館村森林組合から安定的に供給していただいています。また、業務の一部を担う佐藤総業では、飯館村出身の方が4人勤務しています。

セブンイレブンまでい館店の移動販売車を利用したり、地域おこし協力隊の横山梨沙さんにケータリングをお願いしたり、これからのいろいろな形で村の皆さんと触れ合いながら、仕事をしていきたいと考えています。

木質バイオマス発電事業がスタートします

公募で選ばれた「飯館バイオパートナーズ株式会社」が事業主体です。

飯館バイオパートナーズ 部長 小貫勝彦さん



発電×農業



署名した協定書を手に、(右から)ダイサンの峠元幹也社長、杉岡村長、サンライズの高木慶治社長。

峠元社長は「年間500tの生産を目指し年数をかけて取り組みたい」と新たな目標を掲げました。

また、流通の分野で参入する株式会社サンライズの高木社長は「寒暖差でトマトに甘味が出る。生産試験や技術指導にも協力したい。地域や行政と一体となりプロジェクトを成功させたい」と意欲を語りました。

飯館バイオパートナーズに 熱利用に向けた協力を依頼

栽培産地立地協定の締結を受けて、村は同日、飯館バイオパートナーズ株式会社(飯館みらい発電所)に対し、この事業における熱利用について、文書で協力を要請しました。

村が令和元年に計画した、「未来志向型農業体系」が、多方面の協力を得て、いよいよ動き出します。

熱を利用する農業施設「脱炭素社会に適応した『産地流通協定型』トマト栽培施設」を導入します。「飯館みらい発電所」の本格稼働を前に、6月、この事業を推進するための栽培産地立地協定も締結されました。これを始めに、事業者が国への事業申請を行い、計画を具体化していきます。

未来志向型農業推進に係る 栽培産地立地協定を締結

6月24日、村は、株式会社ダイサン、株式会社サンライズと『未来志向型農業推進に係る栽培産地立地協定』を締結しました。杉岡村長は「未来志向型農業が熱利用の社会実装の試金石となるよう、得意分野を生かし合って相互に発展できれば」と期待を述べました。

株式会社ダイサンは、4年前から村内でトマトの実証栽培を行っていて、同社女子硬式野球部の野球教室を開催するなど村を応援してきました。



文書にて協力を要請しました。「飯館みらい発電所」の田中所長(右)と杉岡村長。



木質バイオマス発電 × 飯館村

「飯館みらい発電所」は、村の公募事業「飯館から始まる森林再生と未来志向型農業体系(木質バイオマス施設)緊急整備事業」で採択された飯館バイオパートナーズ株式会社が事業主体となり、バイオマス発電事業を実施します。

この事業は全体において、「里山の再生」「村経済の活性化・村民所得の向上」「ふくしま全体の復興への貢献」「脱炭素社会(ゼロカーボン)の推進」「廃熱を利用した未来志向型農業の振興」という5つの大きな目的を掲げています。後期計画の大きな目標である「人口増加策」にも直結する事業です。

木質燃料の一部に使用される村内の間伐材は、飯館村森林組合が供給します。昨年度から本格的に間伐を進め、発電所に近い貯木場に集積してきました。この発電事業は、村の林業、里山の再生に大きく貢献していきます。

また、「未来志向型農業体系」は、「担い手の確保」「までいブランドの拡大」「産業の発展」に資する中核事業として計画されました。村は、この計画に基づき、「飯館みらい発電所」の廃

発電×林業



総代の皆さんと共に多くの関係者も出席して、交流センター「ふれ愛館」のホールで開催されました。

飯館村森林組合総代会 本年度の意気込みを語る

5月31日、飯館村森林組合の総代会が、交流センター「ふれ愛館」で行われました。豊かな森林を抱える飯館村の森林組合の総代には、210人を超える皆さんが名を連ねています。

協議に先立ちあいさつした佐藤長平組合長は「今年度も“ふくしま森林再生事業”の実施に向けて努める。同時に飯館みらい発電所への原木供給を着実に進め、協力いただく山地主の皆様にしっかり還元したい。総売り上げが前年の3億円から、5億円に拡大することが見込まれ、達成されれば黒字額も前年の1,100万円

から、2,800万円に拡大する見通し。村の森林を担う立場から、さらに村の経済をも支える立場になれるよう、実現を目指したい」と熱意を込めて語りました。

来賓として出席した杉岡村長は、「飯館みらい発電所との連携は、第6次総合振興計画が掲げる『生きがいと生業の力強い再生と発展』『ふるさと資源のフル活用』、同後期計画の『人口増加策』にもつながります。感謝を申し上げると同時にますますの協力をお願いします」と述べました。



ゼロカーボンへ 一人ひとりにできること までいな村の得意分野です！

環境にやさしい暮らしは、
人間にもやさしい暮らし。
できることから一つひとつ
取り組んでみませんか。

車の利用を減らし公共交通
機関を利用することで、ガソ
リンの使用量を減らすこと
ができます。



断熱構造の住宅に住むこと
で、冷暖房にかかる電気の
使用量を減らすことができ
ます。



こまめな節電もみんなで取
り組めば大きな効果に。家
電を買い替える際には省エ
ネタイプへの切り替えを。



長く使えるものを選び大切
に使うことでゴミを減らせま
す。リサイクルも頑張りましょ
う。ゴミの分別もゼロカーボ
ンにつながっています。



環境に配慮した製品の利用
を心がけましょう。場面に応
じて簡易な包装・梱包を選
ぶことも省資源につながり
ます。



こちらも参考に
環境省：デコ活サイト



みんなでコツコツ力を合わせて「ゼロカーボンビレッジいいたて」に
取り組みましょう。未来を生きる子ども達の地球環境を守るために。

令和4年3月14日、飯舘村は「ゼロカーボンビレッジいいたて」を宣言しました。

「ゼロカーボンビレッジいいたて」への挑戦！

- 2050年までに二酸化炭素排出実質ゼロに -

近年、異常気象による大規模な災害が多発するなど、地球温暖化に伴う弊害が顕在化しています。
「脱炭素社会」を実現し、地球温暖化を防止することは、全世界的な要請であると同時に、私たち地
域の将来にも大きく影響する課題です。

飯舘村は、ここに2050年度の温室効果ガス排出量実質ゼロを目指し、「ゼロカーボンビレッジいい
たて」を宣言します。

飯舘村は震災前から「日本で最も美しい村」連合に加盟している自然豊かな村です。

飯舘村は「ふるさと」を愛し、楽しみ、その喜びをともにする「ふるさとの担い手」が手を携える
「明日が待ち遠しくなるようなワクワクする楽しいふるさと」を目指し、「ゼロカーボンビレッジい
いたて」の目標を村民・事業者とともに共有し具体的な取り組みを進めてまいります。

村民一人ひとりが将来に対する責任を自覚し、飯舘村の中山間地域特有の自然条件、立地条件を活か
した持続可能な未来を創出するため、「ゼロカーボンビレッジいいたて」を推進してまいります。

令和4年3月14日

飯舘村長

杉岡 誠

ゼロカーボンビレッジいいたて実行計画

「ゼロカーボンビレッジいいたて」宣言に基づく目標や取り組みを
明確に掲げるため、「ゼロカーボンビレッジいいたて実行計画」を策
定しました。飯舘村が目指す将来像「明日が待ち遠しくなるような、わ
くわくする楽しいふるさと」を目指し、「ゼロカーボンビレッジいいた
て」の目標を村民や事業者と共有し、取り組みを進めていくための計
画です。

取り組み事例の紹介や環境教育などを通して、村民一人ひとりの意
識醸成と次世代の育成を行い、中山間地域特有の自然条件、立地条
件を活かした持続可能な未来の創出を目指します。



実行計画の施策の一つに「公用車へのEV導入」があります。EV
とは「Electric Vehicle※エレクトリック・ビークル」の略で電気自動
車のことです。

6月24日、いすゞ自動車株式会社のEVトラック試乗会が、村役場
裏の公用車駐車場にて実施され、村職員がディーゼル車との乗り比
べをして、EVの機能や性能を確認しました。

今回の試乗会は、具体的な導入を目的にしたものではありません
が、二酸化炭素を排出しない電気自動車の導入については、今後も
情報収集と検討を重ねていきます。

EVトラックの試乗会



トピック
topic

いいたて希望の里学園 前期課程



観察をしてまずは自分の手を描きました。



手に着目して、家族や先生、友達を描きます。



同行した写真家の石井麻木さん(右)とも交流。



手の物語を集めて絵本の原案を話し合います。

こども園の園児は、想像をふくらませて、雲の写真にのびのびと落書きし、身近な野菜や花のスケッチも楽しみました。前期課程の児童は、絵本『ハグくまさん』を導入に、「手」が持つ物語に着目し、身近な人の手をモチーフに絵本の原画を描きました。今後もやりとりを続け、いせ先生と共同で絵本を制作します。

いせひでこ先生・柳田邦男先生のワークショップにて

6月12日から14日にかけて、絵本作家のいせひでこ先生とノンフィクション作家の柳田邦男先生によるワークショップが開かれました。

までいの里のこども園



「先生、描けたよ」雲の写真に自由に落書き。



雲の作品を飾り、読み聞かせて絵本の世界へ。



野菜や花を自由に選んで絵に描きます。



「みんな天才だね」と笑顔を交わす柳田先生。



4年生が
浄水場を見学

いいたて希望の里学園の4年生が、6月4日、滝下浄水場を見学しました。浄水場のさまざまな設備を実際に見学し、児童は全員が興味津々の様子でした。



滝下浄水場では、施設に入つて見学を行いました。児童は一人ひとりがきよきよと施設を見渡しながらいよいよ職員が説明を行うと、それぞれの場所での熱心にメモを取りました。また、「自分の家にどうやって水が送られているのか」「掃除はどのようにしているのか」など、自発的に質問をしていて、見学した内容をしっかりと学ぼうとする姿勢が見られました。見学後には、下水処理の豆知識が書かれたクリアファイルを贈られ、うれしそうに受け取っていました。



までいの里のこども園の3歳以上児が、6月7日、園の畑にサツマイモの苗を植えました。作業のコツを教わりながら、一人ひとりが丁寧に、緑の苗を植えていました。



サツマイモの
苗を植えたよ



園の畑は、いいたて希望の里学園の校庭の隣にあります。園から歩いて畑に着いた園児達は、学級ごとに並んで、苗植えの作業を行いました。畑の先生は、JAふくしま未来館館営農センターから訪れた2人の職員さん。子ども達にも分かりやすく、苗植えの手順を教えてくださいました。子ども達は、土の感触を楽しみながら丁寧に苗を植え、やさしく水をかけていました。大きなおともが育つといいですね！

令和6年 第4回飯舘村議会定例会

令和6年6月議会定例会が、6月14日から21日までの日程で開かれました。一般質問は18・19日に行われ、村議員が村政の重要な課題について村側の考えを質しました。議会審議は21日に行われ、提出された議案はすべて原案どおり可決されました。



今議会で可決された議案など

令和6年度

飯舘村一般会計補正予算

令和6年度飯舘村国民健康保険特別会計補正予算

令和6年度飯舘村介護保険特別会計補正予算

令和6年度飯舘村農業集落排水事業会計補正予算

村長等の損害賠償責任の一部免責に関する条例

東日本大震災に伴う国民健康保険税の減免に関する条例の一部を改正する条例

東日本大震災による被災者が属する世帯の第1号被保険者に対する介護保険料の減免に関する条例の一部を改正する条例

村道舗装機能回復工事請負契約について

農業用機械購入（令和6年度飯舘村被災地域農業復興総合支援事業農業用機械購入）の取得について

飯舘村教育委員会委員の任命につき同意を求めることについて

飯舘村農業委員会委員の任命につき同意を求めることについて

報告第1号
令和5年度飯舘村一般会計繰越明許費繰越計算書

報告第2号
令和5年度飯舘村一般会計事故繰越し繰越計算書

村長村政報告

紙面の都合上、一部省略しています。

長泥地区

今後の特定復興再生拠点区域外の避難指示解除に向けた進め方として、資源活用型堆肥製造施設及び外縁部除染済み農地の一部について、令和7年春の避難指示解除を目指して、国・県と協議を進めていくことを、去る5月12日に長泥行政区住民の皆さまに説明し、ご了解をいただきました。

また、5月30日には、第2回飯舘村環境回復検討委員会を開催し、長泥地区の現地を視察いただくと共に、空間線量率の変化状況などについて確認し、協議を行いました。

引き続き、長泥地区全域の避難指示解除に向けて、尽力していきます。

移住サポートセンター

令和6年度飯舘村交流・移住・定住等促進支援業務について、プロポーザルによる審査を経て、4月1日に新たに株式会社サガデザインシーズと業務委託契約を

締結しました。

なお、今年度当初に、委託業者が愛称募集を実施し、いたて移住サポートセンターの愛称が「3ど（さんど）」と決まり、そのお披露目会が5月7日に行われました。移住定住希望者及び関係者へのきめ細やかな対応を期待しているところです。

宿泊体験館「きこり」

平成28年3月に再オープンした入浴施設の利用者数は、本年4月末時点で4万9333人、平成29年5月8日に業務を再開した素泊まりの宿泊者数については、本年4月末時点で8664人であり、村民の憩いの場交流の場となっています。

また、本年5月1日から、きこり内の「やまぼうし」にて、軽食の提供が開始されており、指定管理事業者である飯舘村振興公社による宿泊・入浴、食事の一体的提供、お客様の満足度の向上、利用客数増を進めています。

企業誘致

令和6年3月19日に、株式会社ハシドラッグと草野地区の商業施設内への出店に関する基本協定を

締結しました。令和6年4月11日には商業施設の建設地において、安全祈願祭が行われ、令和7年春のオープンに向けて本格的な建設工事が開始されています。村内のお買い物環境の向上を図り、村民の帰還や移住の促進、村の賑わいにつなげていきます。

また、本年3月末からは、埼玉県に本社を置くCRSスポーツ工業株式会社が、旧草野小学校校舎を拠点とする「飯舘工場」及び飯舘町地内の空き工場を拠点とする「飯舘工場」を開業しており、村出身の若者を含む10名ほどの雇用を生み出しています。

今後とも、村内企業の活性化と併行して、村内への新たな企業の誘致を進めることにより、雇用創出、定住促進を図っていきます。

マイナンバーカード

5月12日現在のカード交付率は75.6%となっており、村では、引き続きカードの申請および活用方法などの周知を図ると共に、職員による申請サポートなど、村民のカード取得に向けた取り組みを進めていきます。

村民の帰還状況

5月1日現在の村への帰還者は629世帯、1193人で、帰還率は約25.9%です。これに、転入者267人といったホームの入所者等を合わせ、村内の居住者は809世帯、1520人です。避難を継続している方は、県外避難者が149人、県内避難者は、福島市に1935人、南相馬市に275人、伊達市に238人、川俣町に226人、相馬市に117人など、合わせて2935人です。

新型「コロナワクチン」

村内「いちばん館」での集団接種について、令和4年2月に3回目接種より開始し、37日間で延べ7248人が接種しました。また、避難先自治体での接種を合わせると、令和6年3月末までに、延べ2万6228人が接種しました。なお、新型「コロナワクチン」の全額公費による接種は令和6年3月31日で終了しており、令和6年度については、65歳以上の方等に秋以降に定期接種として行われる予定です。詳細が分かり次第お知らせします。

農政関係

木質バイオマス発電施設等緊急整備事業について、現在は工事が完了し、5月の初旬から「飯舘みらい発電所」のボイラーの燃焼性能及び発電機能に関する試験が行われています。正式な営業運転は今年7月の開始を予定しており、引き続き事業主体である飯舘バイオパートナーズ株式会社に対し、安全性の確保や放射線対策、情報公開などを指導していきます。

建設関係

村道舗装機能回復工事は、今年度15路線、4.5kmを計画しているほか、長泥地区内の村道舗装機能回復工事に向けた路面調査を実施していきます。

農業基盤整備促進事業による水路工事は、15行政区において工事を進めています。また、各行政区に工事協議担当者を選任していただきましたので、地元関係者との調整を迅速かつ的確に行い、営農再開の早期実現に向けて取り組んでいきます。

深谷地区の水田に早苗が並んでいます。飯舘村振興公社農業部門の皆さんが、集約された農地の担い手として、今年度から本格的にその取り組みを進めています。道の駅の南側の農地では、花の植栽も始まりました。13年前には、取り戻せる日が来るのかさえも想像できなかった里山の夏景色です。人々の地道な努力で、毎年広がっています。一步一步、でも確実に。



2日目には杉岡村長や生産者の皆さんも会場を訪れ飯館村をPRしながらイベントに参加しました。

「日本で最も美しい村」連合 県内加盟町村が三島町に集結

村は、6月8日・9日に三島町で開催された『第38回ふるさと会津工人まつり』に参加しました。「日本で最も美しい村」連合の県内加盟町村による取り組みの一環です。全国58町村が加盟する同連合には、福島県内から飯館村と三島町の他に、昭和村と大玉村が加盟しています。村のブースでは、キッチンカーを使って、村産黒毛和牛を使った牛丼を提供。各日100食を完売しました。また、地域おこし協力隊・高橋洋介さん(Cocitto)の焼き菓子なども販売し、飯館村の魅力をPRしました。



上) 会場の河川敷。
左) 水防工法「木流し工」の実地訓練を行う村消防団。

福島県水防訓練 真野川流域の訓練に参加

6月9日、南相馬市鹿島区の真野川河川敷で、県主催の水防訓練が行われ、飯館村も関係市町村と共に参加しました。

この訓練は、水防活動に必要な知識を共有し、また水防作業の実地訓練などを行って、水防体制の充実・強化を図るもの。福島県治水協会や相馬地方広域消防本部などの関連機関も参加しました。

訓練では、さまざまな機関が協力し、人命救助の演習や、水防工法の実地訓練などを実施。非常時における関連機関の連携についても確認しました。



写真は白石集会所で行われた白石行政区の懇談会。ご多用の中で参加いただきありがとうございました。

行政区ごとの住民懇談会を開催しています

5月12日に長泥行政区、6月16日に宮内行政区・白石行政区・前田行政区の住民懇談会を開催しました。昨年度までは方部別に開いていましたが、今年度は行政区単位の開催とし、それぞれの集会所や交流センター「ふれ愛館」を会場に実施しています。

今後の日程については、村ホームページやお知らせ版7月5日号でご確認ください。村民の皆さんと直接お会いして、情報を共有したり、課題について話し合ったり、ご意見をお聞きたりできる大切な機会と考えています。皆さんお誘い合わせの上、ぜひご参加ください。

原田徹さんを講師に迎え フラワーアレンジメント教室

5月29日、交流センター「ふれ愛館」で、生涯学習事業『基本からステップアップ フラワーアレンジメント教室』を開催しました。講師は、保原屋生花店(川俣町)に勤務し、アレンジメントの全国大会で上位入賞の経歴を持つ原田徹さん(深谷)。参加者は、バラやアルストロメリアなど8種の花材を使って、ラウンド型のアレンジメントに挑戦しました。原田さんは、切り方や挿し方、整え方などを丁寧に説明し、「バランスがいい」「きれいに仕上がっていますね」と一人ひとりの作品にアドバイス。初心者の方も満足のいく仕上がりに、笑顔を見せていました。



先生に質問したり、参加者同士で話し合ったり、時には無言で集中したり、花と向き合う時間を楽しみました。

皆さんも参加しませんか わくわく農業体験塾

今年度の『わくわく農業体験塾』は、6月1日に交流センター「ふれ愛館」で、第1回実行委員会を開催し、それに続いて畑の作業を開始しました。野菜づくりの先生は、塾長の赤石澤備(すなお)さん(上飯樋)。ベテランの指導をいただきながら、まずはキュウリやトウモロコシ、パプリカなど、さまざまな夏野菜を育てます。また今年度は、JAふくしま未来飯館営農センターが活動に協力する他、移住検討者向けモニターツアー「ミチシル旅」とのコラボも予定されています。皆さんも一緒に活動してみませんか。引き続き塾生を募集しています。



塾長の赤石澤さん(前列中央)に教わりながら、作物ごとに植える場所を決めて、播種や定植を行いました。

杉岡村長が鹿沼市を表敬訪問 支援と交流に感謝を伝える

6月6日、杉岡村長が、栃木県鹿沼市の佐藤信市長を表敬訪問しました。東日本大震災の折、村民と村に避難していた浜通りの方々の緊急避難を受け入れてくださったのが鹿沼市です。避難を希望した500人以上を、市と市民の皆さんが手厚い支援で迎えてくださいました。また、その後も4年間にわたる職員派遣やイベントへの招待など、息の長いご支援をいただきました。当時から市長を務めてきた佐藤市長が4期目の任期満了をもってこの6月に勇退されることから、村の感謝を伝える表敬訪問を行いました。



派遣されていた職員の方々にも同席をいただき、村の様子を報告すると共に、これまでの感謝を伝えました。

防火安全協会飯館支部の支部総会

防火安全協会飯館支部が、6月18日、交流センター「ふれ愛館」で、令和6年度支部総会を開催しました。来賓に赤石澤傳飯館村消防団長（飯樋町）を招き、21人が参加しました。総会にあたり、佐藤賢二支部長（深谷）は、「頻発する自然災害に対し自主防災組織の強化を図ると共に、消防機関と連携し地域住民の安心・安全を守るための防火・防災活動をしていきたい」とあいさつ。また総会に合わせて、10年以上無火災・消防法令無違反を続ける「いいたてクリニック」に対し、優良事業所表彰を行いました。



ヨガのワークショップと菊芋の講演会

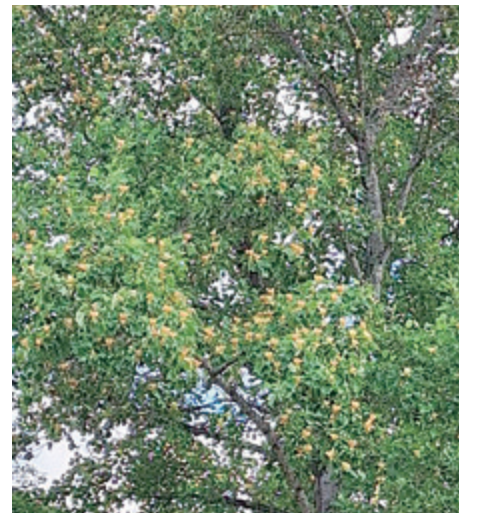
6月21日の国際ヨガデーにちなんだイベントが、同22日、交流センター「ふれ愛館」で開かれ、インド大使館・文化センターのヨガ講師、サンジェイ・クマールさんによるワークショップで、村内外の参加者が、ヨガのポーズ、呼吸、瞑想を体験しました。このイベントは、筑波大学の教授でインド出身のラクワール・ランディープさんと交流のある伊藤延由さん（小宮）が協力し、飯館村で開催されました。同大学外部講師の高橋玄朴先生による講演『菊芋・ヨガ・アーユルヴェーダの可能性と役割』も行われました。



ユリノキの大木に注目が集まりました

ユリノキは、百合の木・百合の樹とも表記されます。モクレン科ユリノキ属に属する落葉高木で、5月から6月にかけて上向きに咲く花の形が、チューリップやユリの花に例えられます。

写真は、原田直志さん（深谷）の自宅の昇口横に立つユリノキです。「この地域で大木が何千もの花を咲かせているのは珍しい」と口コミが広まり、聞きつけた人が次々に、この木の元を訪れました。原田さんによると、物心がついた頃にはすでにあり、いつ植えられたものかは分からないそう。「5月中旬に、根元の方から咲き始め、大木が花の色に染まります。毎年眺めていましたから、急に注目をされて驚いています」と話していました。来年の開花が今から楽しみです。



水曜限定でまごころに登場「もりの駅弁屋さん」

5月に開業した『もりの駅弁屋さん』。水曜日限定で、加工施設「もりの駅まごころ」に、おいしいお弁当がずらりと並びます。

駅弁をつくっているのは、「ゆかり農園」の木幡百香里さん（伊丹沢）です。まごころの厨房で仕上げる幕の内弁当には手作りの惣菜がぎっしり。他にもカレー弁当、丼物、麺類、デザートなど、ラインアップは週替わりで、バリエーションも豊富です。サービスの味噌汁もあり、店内でゆっくり味わう人も。おこわやサラダ、惣菜、漬物などのテイクアウト商品も人気です。



野菜やプリンの販売も。

毎週水曜日の午前11時から午後2時まで営業します。

この日の幕の内弁当は、焼き鮭、唐揚げ、信田巻、田楽、玉子焼き、ポテトサラダなど。どの料理もこだわりのおいしさ◎



持ち帰っても店内で食べてもOK。

飯樋町下組による地区の花植え

5月26日、飯樋町行政区の下組が、地区の花植えの活動を行いました。この花植えは、昨年から実施され、今年で2回目の行事となります。飯樋町下組の各家庭の軒先をきれいな花で飾ろうという趣旨で行われています。

当日は、飯樋町の集会所前に組員が集まり、互いに協力しながら、マリーゴールドやミニひまわり、ペチュニアなどの花をプランターに植え、各家庭に持ち帰りました。



道の駅の「親切」に届いたハガキ

相馬市の方から、杉岡村長宛てに、心温まるハガキが届きました。ご紹介します。

相馬市の一住民です。（中略）去る5月13日、「きこり」の「イオラ」に向かう途中、「まてい館」で買い物しました。買おうとした品には「野草」と記されていました。小さな花の色に惹かれて抱えてレジに行き、花の名前を聞きましたが、分からないとの返事でした。精算し、帰ろうとレジから数メートル離れると、後ろから女性の店員が来て、花の名を調べましょうかと言われました。（中略）その名は「紫蘭（しらん）」とのことでした。

彼女の小さな善意に、とても気分良く、その後、きこりのイオラを利用し、帰ってきました。彼女一人の小さな親切かもしれませんが、私にとっては、村全体の人の、心温かい印象としてずっと残り、次回も利用したくなりました。（後略）



素敵なエピソードを、ありがとうございました。

いにしへの鍛冶仕事の里 飯館村で刃物をつくる

刃物の館やすらぎ工房(株式会社二瓶刃物)

二瓶貴大さん(大倉)は、刃物の製造・販売・修理を行う「刃物の館やすらぎ工房」(株式会社二瓶刃物)の4代目。親方でもある父の信男さんと共に、刃物工場の適地を探して飯館村と出会い、飯館工場は、旧草野幼稚園を改修して令和元年に誕生しました。

園舎のホールだった二室に、大型の機械類が並びます。貴大さんは、日本の伝統的な刃物づくりの技術を学び、全ての工程をまかなう一貫生産で、オーダーメイドを含むさまざまな刃物を製造しています。プロの道具から一般家庭向けの刃物まで。販路は海外にも大きく広がっています。「ありがたいことにお客様からはよい刃物と評価をいただくのですが、修行が進むにつ



炉の温度は約1200度。軟鉄と銅を融合する鍛冶の作業。澄んだ打音が響きます。



れて自身に要求するレベルも上がっていくので、仕事に向き合う気持ちは1年目と変わらないです」と真摯なまなざし。

この夏には「山の向こうから鉄を打つ音が聞こえる」と題したイベントを開催します。7月20日の講演(事前予約制)に始まり11月まで続く企画です。

8月3・4日、2日連続のイベントでは、3日に、古代の炉を復元して鉄をつくりその鉄からさまざまな道具をつくり出す工程を公開します。「1200年前の飯館を舞台に、当時の鍛冶屋の仕事を再現します。この地に根ざす歴史や誇りを、村の人達と共有したい」。元地域おこ



焼入れ、研ぎ、そして名入れまで、までいな仕事を重ねて作り上げられる美しい刃物。

し協力隊の妻麻美さんが二人三脚で準備にあたり、両日、魅力的な飲食ブースが並ぶ他、4日にはワークショップ(二部事前予約制)も開かれます。親方の信男さん、貴大さんが刀鍛冶を学ぶ藤安将平刀匠も、この挑戦を全面的に支えます。

また、大倉地区の古民家を改修した自宅で民泊許可を取得し、鍛冶仕事の体験プログラムを準備中。現在は試験的に県のツアーなどを受け入れています。

「鍛冶屋さんがさりげなく行う作業も実際にやってみると難しい。その難しさにも触れてほしい」。日本の刃物づくりの魅力を飯館村から伝えていきます。

刃物の館 やすらぎ工房

飯館村草野字大師堂113-37

☎ 0244-42-0333

(店舗) 福島市三河北町16-6

☎ 024-533-0418

HPは「刃物の館やすらぎ工房」で検索



Instagram

企業雇用型協力隊(P26参照)を募集中。
資格や経験は不問です。

「ものづくりが好きというのが根底にある」と貴大さん。刀鍛冶の資格試験の準備も進んでいます。



百歳賀寿 佐藤フミヨさん(伊丹沢) 100歳おめでとうございます



着物姿でご家族や出席者と記念撮影。

6月23日、100歳の誕生日に合わせて、佐藤フミヨさんの百歳賀寿がいいたてホームで行われ、県や村、飯館村社会福祉協議会などから、祝状や記念品が贈られました。

佐藤さんは、大正13年生まれ。若い頃は野菜をつくり、二枚橋の直売所でおしゃべりをしながら販売することが楽しかったそうです。ますますのご健康とご長寿をお祈りします。

村民で100歳を迎えられた方は佐藤さんが45人目。現在100歳以上の方は佐藤さんを含め8人いらっしゃいます。



ホームでもお祝いの会が開かれました。

厨房スタッフ手作りの誕生ケーキ

高野和幸さん 瑞宝単光章を受章

高野和幸さん(長泥)が、専門工事業務功勞により瑞宝単光章を受章しました。

高野さんは、有限会社福島工務店(旧佐藤建業)で、43年間にわたって型枠工事に携わり、現在は工事部長を務めています。さまざまな資格を取得し実務経験を重ねながら、公共・民間施設の建設工事で高精度の技術を発揮してきました。また、職長として一線で活躍しながら若手人材の

指導にあたり、確かな仕事と実直な人柄から、会社はもと

より取引先からの信頼も厚く、業界の推薦を受け今回の受章に至りました。

勲章と勲記は、5月に国土交通省にて授与され、妻ののぞみさんと共に、皇居で天皇陛下に拝謁しました。

「周りの皆さんに祝福されて、ようやく実感が湧いてきました」と高野さん。「受章に際しても会社に変にお世話になりました」と周囲への感謝を語りました。今後も現役で仕事を続けていくそうです。

受章当日の記念写真。



施設の愛称は『農業研修館きらり』

新規就農者技術習得管理施設の愛称が公募により『農業研修館きらり』に決定しました。公募は4月から5月にかけて行われ、選考の結果、深沼慶さん(川俣町)考案の愛称が採用されました。「新芽に朝露が輝くイメージを“きらり”と表現しました」と深沼さん。漢字で「希来里」の意味も込めて考えたそうです。素敵なネーミングですね。

『農業研修館きらり』は、飯舘村で新規就農を希望する人が、就農体験を通して技術や経営知識を習得するために利用できる施設で、農業振興や移住促進の新たな拠点として期待されています。7月1日に竣工式を行い、施設の運用が始まりました。



■施設内容 ダイニングキッチン、研修室、洗濯室、居室5(定員5人4室・定員7人1室)、事務室など。

■利用方法 農業研修を目的に利用を希望する方は、産業振興課農政第一係までお問い合わせください。

■農業研修 農業技術指導や専門家による講習などについては随時お知らせします。

問 産業振興課農政第一係 ☎0244-42-1621

6月の村の動きと主なできごと

- 1日・第1回わくわく農業体験塾(交流センター「ふれ愛館」・講師園場)
- 5日・福島県立医科大学保健科学部 実習(いいたてホーム)
- 5日・福島県立医科大学保健科学部 実習(いいたてホーム)
- 5日・福島県立医科大学保健科学部 実習(いいたてホーム)
- 6日・栃木県鹿沼市表敬訪問(栃木県鹿沼市)
- 6日・北海道科学大学 村内研修(村役場・宿泊体験館きりこり他)
- 7日・飯舘村市町村の国民健康保険事業の運営に関する協議会(村役場)
- 8日・第38回ふるさと会津工人まつり 日美連福島県加盟町村合同企画(三島町)
- 12日・いせひでこ先生・柳田邦男先生ワークショップ (いいたて希望の里学園・まていの里のこども園)
- 14日・6月議会定例会(議場)
- 15日・わくわくどきどき合宿通学(農業研修館きらり他)
- 16日・宮内行政区・白石行政区・前田行政区 住民懇談会(各集会所)
- 19日・福島県立医科大学保健科学部 実習(いいたてホーム)
- 20日・農業委員会定例会(村役場)
- 20日・26日・集団検診(いちばん館)
- 23日・百歳賀寿 佐藤フミヨさん(いいたてホーム)
- 24日・未来志向型農業推進に係る栽培産地立地協定締結式(村役場)
- 26日・いいたて村文化祭第1回実行委員会(交流センター「ふれ愛館」)
- 28日・第2回村民スポーツ大会検討会議(交流センター「ふれ愛館」)
- 29日・語学研修「希望の里WAKUWAKUツアー」事前研修・保護者説明会 (交流センター「ふれ愛館」)
- 29日・語学研修「希望の里WAKUWAKUツアー」事前研修・保護者説明会 (交流センター「ふれ愛館」)
- 29日・30日・移住検討者向けモニターツアー「はじめてのミチシル旅」(村内各所)
- 30日・飯舘みらい発電所竣工式(飯舘みらい発電所)
- 30日・飯舘みらい発電所竣工式(飯舘みらい発電所)
- ・大久保・外内行政区住民懇談会(大久保・外内集会所)

7/13 生産者が直接販売「までいなマルシェ」を楽しもう!

■ 7月13日(土) 午前10時～午後2時
■ いいたて村の道の駅までい館

「いいたて村の道の駅までい館 生産者の会」が、7月13日に、道の駅までい館にて「までいなマルシェ」を開催します。当日は、採れたて野菜と季節の花々、加工食品や料理、雑貨も出品される予定です。生産農家の皆さんから、気になる野菜のおいしい食べ方や、花木の育て方を教えてもらえるチャンスです。道の駅までい館の魅力にも、ぜひ触れてみてくださいね。

【出店予定】 細杉今朝代さん 鮎川農園 菅野研究農場 齋藤英雄さん
しえるふぁ〜む 三坂勲さん ゆかり農園 F☆T HOUSE 村カフェ753
エムケーファーム 高橋トク子と村民食堂 (6月27日現在)



昨年10月に第1回を開催(上の写真)。第3回は今秋9月28日開催の予定。

問 いいたて村の道の駅までい館 ☎0244-42-1080

仙台市で飯舘村の魅力を再発見!

村は『地域魅力向上・発信事業』の一環で、各地のイベントに出展しています。7月には仙台市で2つのイベントが実施されます。「おいしい飯舘」を再発見できるイベントです。村民の皆さんもぜひお出かけください。

Route 227s' cafe いいたてフェア ■ 7月1日(月)～31日(水)



東北227市町村の魅力あふれる食材を、特別メニューで提供するカフェ・レストラン「Route 227s' cafe」。食材の個性やおいしさを無限に引き出すひと皿に、生産者の想いものせて。「いいたてフェア」は7月いっぱい開催です。

Route 227s' cafe(ルート227カフェ)
宮城県仙台市青葉区国分町3丁目1-1
☎022-796-9770
午前11時～午後10時 ※午後9時ラストオーダー
<https://route227.jp/>

杜の都のワイン祭り バル仙台2024 ■ 7月12日(金)～15日(月・祝)



東北の醸造家が手がける個性豊かなワインと共に、東北の食材を使った欧州料理が味わえるイベント。飯舘村の食材も、ワインと相性のよい料理に仕立てられ、バルのブースに登場します。

杜の都のワイン祭り バル仙台2024
仙台市役所前 勾当台公園市民広場
午前11時～午後9時
※12日は午後4時開始/15日は午後7時終了

問 産業振興課農政第一係 ☎0244-42-1621

伊丹沢モデル地区事業報告～果樹伐採調査

過去にも、この通信に掲載させていただきました、伊丹沢地区で行われているモデル地区事業の最新情報をお伝えします。前回(令和5年11月号)は、農地にサルの侵入を防ぐための柵を設置して効果を検証するという「防除」の作業をご紹介しました。今回は、サルが出没する原因になるものを取り除くという、「環境整備」の作業をご紹介します。

危険?放任果樹

柿や栗などの実がなっている光景は、季節感があっていいですね。家によっては、先祖伝来の果樹や、大切にしてきた果樹もあると思います。実がなって、きちんと収穫されている果樹は、何も問題はありません。しかし、実がなっても収穫せずそのままになっている果樹を「放任果樹」といい、サルやイノシシなど、さまざまな動物のエサ場になってしまいます。つまり、放任果樹は獣害対策の観点からすると、危ないものと言えます。伊丹沢地区では、そのような放任果樹を選定して、住民が協力して伐採する計画を立てています。



まずは調べよう

5月2日に、伐採を希望されている放任果樹の調査が行われました。伐採の希望者だけでなく、区長や実際に伐採の作業を行う予定の住民など、有志で伐採予定の放任果樹を見てまわりました。その結果、合わせて80本近くの放任果樹を伐採することになりました。



いよいよ作業!

5月19日に伊丹沢地区の役員会があり、その中で、調査の内容をまとめた資料をもとに、伐採の作業方法などについて話し合いが行われました。今後は、伐採作業をするメンバーの打ち合わせを経て、実際にチェーンソーを使った伐採作業に入ります。

伊丹沢地区の皆さんからは、地域をサルから守るという熱意を感じます。放任果樹の伐採が、地域にとって良い結果をもたらすよう、私たちもサポートしていきます。結果は、いずれこの通信で報告したいと思います。伊丹沢地区の皆さん、作業はご安全に!

イノサル通信は村の鳥獣対策を支援する京黒さんからのお知らせです。



福島県避難地域鳥獣対策支援員

きょうくろ あつし
京黒 篤志 さん

令和3年1月から福島県避難地域鳥獣対策支援員を務めています。令和6年度から飯舘村の主担当となりました。

通信の変遷

農村公衆電話と農村集団自動電話

歴史の散歩道

明治に入り、国が整備を進めた通信インフラで、村に最初に導入されたのは郵便制度です。草野局は明治7年、二枚橋局は明治12年に開局。追って飯樋局は昭和2年、大倉局は昭和13年に開局しました。国内電報は明治2年に東京・横浜間で運用が始まりましたが、村内での取り扱いは、最も早い草野局で明治44年からでした。

昭和6年には、草野局に電話が設置され、電話交換(交換機にプラグを差し込み回線を接続するサービス)が昭和8年から始まりました。家が広域に点在する山村では電話の普及が進みにくく、設置はその後、役場や農協、企業や商店の一部に限られていました。昭和30年に「農村公衆電話」の制度ができると、一定の戸数がある集落に公衆電話が引かれるようになり、国費負担の電話は受話器が赤、有償架設のものは黒でした。



旧飯舘中学校の研究授業。テレビ電話で沖縄県の中学生と対話し当時の先端技術を体感。(平成11年)

右) 昭和44年11月に開通した農村集団自動電話。
左) ダイヤル式電話開通へ。電話線工事。(昭和50年)

ふれ愛館だより

交流センター「ふれ愛館」からのお知らせです。

交流センターの図書貸出
ご利用をありがとうございます

令和5年度の交流センター図書貸出冊数は、延べ1042冊でした。多くの方々が読書を通じて心豊かになるよう引き続き図書の購入、整理、貸出等に力を入れてまいります。佐須、草野、関根、松塚、前田・八和木の地区のサロンにもこあら号で巡回しており、また、今年度は図書貸出ボックスを使用し、サロン開催日に図書の入れ替えを行います。



7月20日(土)は、「はるお姉さんのサイエンスショー」の開催に合わせて、交流センターで図書貸出を行います。「平日はなかなか行けないんだよね」そんな方もぜひお越しください。

図書貸出
受け付け 7月20日(土)
午前10時～午後3時

サイエンスショーもまだまだ観覧者を募集中です!!

問 生涯学習課 ☎0244-42-0072

百歳を迎えた方から子ども達まで 人々が「きらり」輝く初夏の里

第23回

杉岡 誠 村長の 愛楽故郷味

あいらくふるさとみ



雨の日も徐々に増え、夏の気配が近づく水無月。村で45人目となる百歳の日をお祝い申し上げました。戦前戦後の日本を支え、地域と村を育んでこられたそのご人生を尊び、敬愛の念をもつて、ご家族の皆様、いいたてホームに入所の皆様、職員の皆様とともに、手作りのケーキを囲んでお慶び申し上げました。このコラムをご覧の皆様も、ぜひ元氣な百歳を目指していきましょうね！

実はこの原稿は、福岡市での「日本で最も美しい村」連合定期総会2024に向かう道中で書いています。2日目に参加者全員で視察研修にお伺いする「東峰村」では「いいたて雪つ娘かぼちゃ」が栽培されています。平成29年の九州北部豪雨で被災された方々が「地域と人を繋いでくれる娘」を、令和3年から栽培されていると、東峰村の皆様にご挨拶と御礼をさせていただきたいと思っております。

6月11日には、この「いいたて雪つ娘かぼちゃ」の普及と栽培、加工に精力的に取り組んでこられた渡邊とみ子さんが農家民宿「古今呂（こころ）の宿 福とみ」をオープンされました。詳しくは今月号の記事をご覧くださいと思います。そして、6月15日から開講した「合宿通学」では、新規就農者技術習得管理施設「農業研修館きらり」のプレオープンを兼ねて、宿泊する子ども達も沢山の思い出を重ねてくれました。20日のまでいな家での夕食では、滋味豊かな郷土料理をご提供くださった高橋トク子さんのお話に真剣に聞き入る子ども達の姿に、私も20年前の職員時代にボランティアで参加した合宿通学のことを思い返していました。20年前に参加していた6年生のうちのお一人が、今は役場職員になっていることを子ども達に話しました。合宿通学での経験や思い出をもとに、将来、村内で働いたり、合宿通学のアドバイザーになっていただけたら、これ以上の喜びはありません。ぜひ皆様にも「きらり」と光る将来に夢を馳せていただければと思います。

ひとのうごき

結婚おめでとう

氏 名	出身地
荒 昂 樹 さん	大 倉
伏 見 愛 理 さん	南相馬市



HAPPY WEDDING!

ひとのうごき 令和6年6月1日現在

人 口	今月（前月比）	5月1日～31日までの人口動態
●男	2,325人（－8）	転入 1人
●女	2,273人（－1）	転出 5人
計	4,598人（－9）	出生 0人
世帯数	1,802戸（－1）	死亡 5人
		（住民基本台帳人口）

おくやみ

氏 名	年齢	行政区
伊 集 院 博 さん	70	草 野
圓 谷 義 信 さん	64	蕨 平
石 川 洋 子 さん	81	比 曽
林 末 治 さん	78	白 石
高 橋 タマ子 さん	91	深 谷

ご冥福をお祈り申し上げます



（5月21日から6月20日までに届け出のあったものを掲載）
※この欄に掲載を希望しない方は、届け出の時に住民係へお申し出ください。

地域おこし協力隊を募集中！

募集要項は飯舘村HP「移住定住」ポータルサイトに掲載しています。下記の情報は6月27日現在のものです。



2つのタイプの協力隊を募集しています。フリーミッション型の隊員は、2人が活動中で、卒業した方々も村内で活躍しています。また、新たに募集を開始した企業雇用型の隊員も採用が1件（訪問看護ステーションあがべで）、内定が1件（エムケーファーム）あり、応募を検討して村を訪れている方々もいます。協力隊になるには、現在の居住地などに条件がありますので、応募の前に、募集要項をご確認ください。

■フリーミッション型協力隊 隊員が飯舘村と委託契約を結んで活動します。

活動期間中または終了後に、村内で飲食店や小売店等を開業し、村の製品の活用や村のPRに積極的に取り組む方を求めています。

■企業雇用型協力隊 村内の受託事業者が隊員を募集・雇用します。

村内の企業で働き「ふるさとの担い手」となってくださる方を募集しています。地域の振興につながる仕事に取り組みながら、飯舘村で暮らしてみませんか。

6月27日現在の募集企業（協力隊の採用は選考の上で決定します）

刃物の館やすざぎ工房（株式会社二瓶刃物）／図図倉庫（合同会社MARBLING）／いいたて結い農園／飯舘村振興公社

問 いいたての暮らしをつなぐステーション【3どろ】（いいたて移住サポートセンター） ☎0244-68-2850

村民広報委員 富士男の

ちょっと寄り道 ③



ちっちゃな事



紫陽花の咲く季節になりました。

紫陽花の花言葉は「移り気」。他にも、

「辛抱強い愛情」「元氣な女性」「寛容」などの言葉もあります。それぞれにちっちゃな思い出がある花言葉かもしれません。

ある時、いいたて村の道の駅までい館で、トラックの運転手が、溶けそうなアイスクリームをなめながら急いで乗り込む姿を、可愛らしいと思いながら見る事がありました。何気なく目にするちっちゃな光景でした。そう言えば、旧相馬農業高等学校飯舘校から伊丹沢に向かう道々の青葉の中の木漏れ日もとても綺麗でした。

役場前の交差点で信号待ちをしている時、前の車の人や、隣の車で待っている人は果たしてどんな事を今想っているのだろうか？どんなことを感じているのだろうか？と想っています。

ある幼い三兄妹が、ニワトリに、餌の三つ葉を楽しそうにやっていました。長男は家に卵を持ち帰って、大事そうに温めていたと母親から聞きました。他愛のない事です、ちっちゃな、大切な話だと想います。

私達、前に進む事も大事ですが、ちょっとだけ生きる事に立ち止まり、静かなひと時を見つめる事や、見過ごしている自分の心に正直になってみる事も、この紫陽花の咲く季節には、必要な事ではないでしょうか。



「古今呂の宿 福とみ」 前田・八和木地区に農家民宿がオープン

いたて雪っ娘かぼちゃの生産者で、「までい工房美彩^{びさいれんと}恋人」の代表として6次化商品の開発にも力を注ぐ渡邊とみ子さん（前田・八和木）が、農家民宿「古今呂^{こころ}の宿福とみ」を6月11日に開業しました。農家民宿は亡夫・福男さんと追いつけてきた夢の結晶です。

「福とみ」の自慢は、雪っ娘かぼちゃをはじめとする地元の食材をふんだんに使った料理。「実家が親戚の家にでも来たような気持ちで母ちゃんの味を楽しんでほしい。食材をいかにおいしく余す所なく



地域の人や協力者に感謝を伝えたお披露目会。右端から加藤さん、とみ子さん、熊谷さん。

いただくか。とみさんの想いが行き届いた料理は心躍るおいしさです。さらにはカボチャ畑で農業体験をしたり、語り部でもあるとみ子さん達と心ゆくまで語り合ったり。ここでしか味わえない魅力が詰まった交流拠点の誕生です。また、スタッフの熊谷則子さん（前田・八和木）と、実妹でもある加藤眞里子さんは、これまでの道のりにも寄り添い続けた心強い味方。「何度も訪れたくなる愛される宿になるよう支えていきます」とやさしい笑顔を交わしていました。



とみさんの背中をいつも押してくれた福男さんの大工としてのこだわりが詰まった板張りの客室。



古今呂の宿 福とみ

飯館村飯樋字大橋 180
☎080-5740-4656

1日1組限定
(1名から宿泊可・最大7人)
1泊2食付
(朝食のみプランもあり)



宿泊予約は専用サイトから
https://reserva.be/iitate_fukutomi/



水害に備えよう！

梅雨の時期から秋にかけては豪雨や台風による水害が発生しやすいシーズンです。突然の被災や避難を想定して日頃から備えましょう。また、気象情報や避難情報などの取得方法も確認しておきましょう。

福島県防災アプリ

気象情報や災害情報、避難所の開設状況などが確認できる他、「マイ避難シート」「備蓄品リスト」が作成できるアプリです。スマートフォンをお持ちの方はダウンロードの上ぜひご活用を。

福島県防災アプリ



飯館村公式ラインでも気象警報などを配信しています。



〈編集後記〉

今回の広報紙でも掲載されました、いきいきわくわく合宿通学にスタッフとして参加させていだきました。子ども達の有り余る元気と笑顔を見て圧倒されたとともに、自分も十数年前同じように合宿通学に参加していたことを思い出しました。当時のスタッフと同じ立場に立ってみて、感慨深い想いです。これから大人への階段を上っていく

子ども達が、いつまでも健やかであることを願っています。(巻野)
広報紙には毎月締め切りがあつて、今回こそギリギリにならない！余裕を持って印刷屋さんを送るんだ！と毎回心に誓うのですが、まだ一度も実現していません。今回も取材先の皆様のやさしさをご協力に助けられての校了で本当に感謝があります。ありがとうございます。次こそはきつと…。(星)